



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2024.5.31
NO.115

申36号

「黒字化までの努力と好業績結果に踏まえ、真の笑顔と活気あふれる生活を実現し、明日への活力となる夏季手当補給を求める申し入れ」 **団体交渉始まる！**

会社は現場の想いが理解できていない！

～ 3 現主義は絵に描いた餅～

申36号交渉の会社回答

- 考えを否定するつもりはないし、受け止める。株主増配をしたから夏季手当補給をするという考えはない。社員への還元はしっかりやっているつもりだ。
現場社員の声を聞かず、ごく一部の社友会の声しか聞いていないのでは？
- 好決算を出したことは紛れもなく社員の努力である。3月8日に示した夏季手当 2.7 ヶ月分は、好決算を生み出したうえでも妥当な数字だと考えている。
連結決算の2015年の当期純利益は今回より150億円以上低かったけどその年の夏季手当は2.87ヶ月
- 物価上昇により社員生活に影響がでていることは認識しているが会社としても影響を受けている。年度末決算の状況からみても処遇改善の実施を行いながら、社会状況も念頭におきながら考慮して判断した。
管理手当等の増額、扶養手当の変更、新卒初任給の改善など一部社員のみ改善！
年収ベースと答えないのは手当を減らしたいのか？
- 生活設計が立てられるために賃金と夏季手当を同時議論してきた。総額人件費の低下は理解している。重要視しているのは、賃金がいくら手元にくるかであり、平均基準内賃金が下がる状況は良くない。平均1万円を超えるペアを上げたことは会社として踏み込んだ判断をした。
今年のペア平均は5.01%（会社発表）、連合発表の全国平均ペア（5.17%）より下回っている！
- 社員を大切にすることは認識一致している。人件費を低く抑えたいという考えはない。働きがいの向上を図りながら、直近の成績、中長期的な見通しの判断をしてこの水準になった。
単体での人件費はコロナ回復で上がってはいるがコロナ前と比べると約400億円低い！

会社回答に整合性なし！

現場社員は今こそ目を覚まさないといけない！

東京支部は社員・家族の幸福の実現を

具現化するため要求を継続し続ける本部交渉団と

共に運動をつくりだしていきます！